

## バレイショ (春作)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型 トンネル												
主な作業	ト開 ン始 ネ ル		ト終収 ン了穫 ネ ル								定 植	マ ル チ

## ベタガケ栽培

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
べたがけ												
主な作業	マ ル チ	ベ開 タ始 ガ ケ	ベ終 タ了 ガ ケ	収 穫 開 始							定 植	

## マルチ栽培

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチ												
主な作業	マ ル チ			収 穫 開 始							定 植	

バレイショ ナス科 原産地：南米ペルー、チリ

作物名 バレイショ

学 名 *Solanum tuberosum* L.

作 型 春作

適する。最低温度の時期を過ぎてからほう芽させ、梅雨期前に収穫期を迎える作型である。

### 2 適応地域

平坦地域

## 技術体系

### 1 作型の特徴

トンネル栽培では、12月上旬より植え付け、単価の高い4月中下旬に収穫する作型である。適地は年平均17℃以上の極暖地に限られ、肥大が早く月齢の高い夏種芋を用いる。芽立ち後の霜害を考えて覆土を厚くする。

マルチ栽培は2月の平均気温が6℃以上の地域に

### 3 栽培条件

(1) 温度 生育適温 15～20℃

(2) 光 光飽和は6万ルクス

(3) 土壌条件

排水良好で耕土深く肥よくで膨軟な砂壤土、壤土が適する。土壌酸度はPh 5.0～6.0が良く4.5以下、7.0以上では生育が悪い。

#### 4 施設装備

(1) 支柱 (トンネル栽培)

#### 5 経営目標

(1) 収量 2.5 t / 10 a

(2) 投下労働時間 200時間 / 10 a

(3) 所得率 40%

(4) 経営規模 60 a

(家族労働力2人の場合)

## 栽培技術

### 1 品種と特性

「メイクイーン」

中早生種で休眠期間が長く、長紡錘形の皮色、肉食とも淡黄白色で食味も良好である。着芋が浅く緑化しやすい等の欠点があり病害に弱く、収量も多くない。

「デジマ」

中晩生種で、休眠期間が短く、春、秋二期作に適する。やや開張性の草姿で茎数、分枝数はやや多い。皮色、肉色とも淡黄白で、春作で収量が高い。

「ニシユタカ」

早晩生種で、休眠期間が短く、春作に適する。長円で外観がよく、病害抵抗性は強く多収で栽培しやすい。

### 2 種芋

(1) 種芋の条件

休眠の長短は品種によって異なるため、作型に適した種芋を選ぶ。

種芋によって伝染するウイルスや輪腐病の対策として無病種芋を使用する。

大きさは、35 g内外でよい。

### 3 種芋の予措

浴光処理

休眠の長短にかかわらず浴光処理を行い催芽と芽の伸長をはかる。特に芽が伸びすぎているものは、第1芽をかぎ、浴光して出芽の均一化を図る。(芽長5mm～10mm) 逆に休眠の長い品種は、浴光により休眠を打破し、健全な催芽を促す。処理法は、気温15～20℃で2週間～1ヵ月間種芋に浴光、保温処理を行う。風通しがよすぎると植物体内の水分が低下しやすく、発芽力の低下をまねくため注意を要する。温度管理は25度以上の高温が長いと黒色芯腐病が発生するので換気を行い、夜間も冷え込む場合はビニルやむしろ等で保温する。

### 種芋切断

浴光処理後、植付3～4日前に頂芽を中心に縦に切断する。(1個重量35g前後のものを使用し、60g前後の種芋は二つに分割する) 萌芽の早い芋と遅い芋とに分別し、出芽がそろうように分けて植え付ける。切断したものは、切り口に癒合組織ができるように2～3日陰干しする。

### 種子消毒

切断し癒合組織ができたあとで種子消毒を行う。

### 4 耕起整地

芋の肥大には多湿を嫌うので、土をよく砕き、深く耕起する。

### 5 植え付け

植溝は6cm程度にし、種芋は発芽方向を揃えるために切口を下にして地面に配置し、その上に3cm程度覆土し、堆肥と化成肥料を施す。さらに5cm程度覆土をして、畝を高くし、マルチをする。防霜のために覆土を厚くする。

栽植距離は畦巾60cm、株間22cm～25cmが普通で、水田や耕土の浅いところでは120～130cmの畝を作り条植えとする。

	栽植密度	密度	種芋量
トンネル栽培	11月下旬 ～12月上旬	6000株/10a	200～ 250kg/10a
ベタガケ栽培	12月上旬 ～1月下旬	〃	〃
マルチ栽培	12月中旬 ～1月下旬	〃	〃

## 6 施肥

バレイショは茎葉をできるだけ早く繁茂させその力で芋の肥大を図るものであるから、肥料は基肥を主体とし、追肥をする場合もできるだけ早めに行う。

施肥量 (kg/10a)			
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
基肥	20	25	20

## 7 栽培管理

### (1) 培土

萌芽期頃、晩霜害を防ぐために行い、出芽の調整を行う。

### (2) マルチング

降雨のあとで、土に湿りがあるときに行う。マルチが早過ぎると萌芽が早くなり、晩霜の被害を受ける。マルチは畦に直角又は並行にする。

### (3) 芽出し

芽がマルチに触れると、焼けをおこすので出芽したらその都度、マルチを破って芽を出してやる。

(※べたがけ栽培では出芽後、霜害防止のためにタフベル等を使用する。)

### (4) 芽かき

茎葉の充実と芋の肥大を均一化するため、頂芽の優勢茎を1～2本残して他の芽をかぎとる。

### (5) トンネルかけ

萌芽始期頃に行う。適温は20～25℃であるので、高温害や低温害を受けないようにする。乾燥しすぎると芽が徒長し、寒害を受けやすくなるので注意する。

### (6) pH矯正

アルカリ土壌では、そうか病が発生するのでpH5程度に矯正する。

## 8 収穫

4～5日晴天が続いた後に収穫する。掘り上げ後2～3時間圃場で良く乾かし水分を飛ばしてから収納する。